

令和 2 年度
「農」の機能発揮支援アドバイザー派遣事業(実施結果)
(この事業は、令和 2 年度都市農業機能発揮支援事業(農林水産省)を利用して実施しています。)



令和 3 年 3 月 31 日

一般財団法人 都市農地活用支援センター

目 次

1. 令和 2 年度実施概況 2
2. 過去8年間の事業推移 3
3. 派遣箇所の詳細 4
4. 課題と解決方法等28

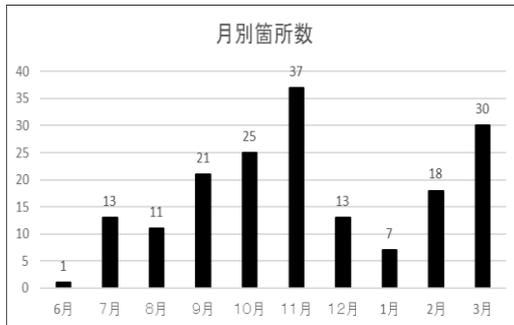
1. 令和2年度実施概況

○全国の農家、都市住民、企業、NPO等の依頼に応じ、都市農業の多様な機能を活用した取組みを支援するため、テーマに応じた専門家をアドバイザーとして派遣した。
(今年度から、コロナ感染予防等で必要な場合はオンラインでの派遣実施も可能とした。)

○今年はコロナの影響で、多数が集まる講演会、学校の授業(食育)、高齢者施設や障害者施設での活動、農業祭等のイベント、食に関わる民間企業のイベントが厳しく抑制されたが、それにも拘らず年間で193箇所から専門家派遣の申込があり、176箇所に専門家を派遣することができ、本事業の目的である都市農業機能への国民の理解が大幅に拡大、深化していることが示された。

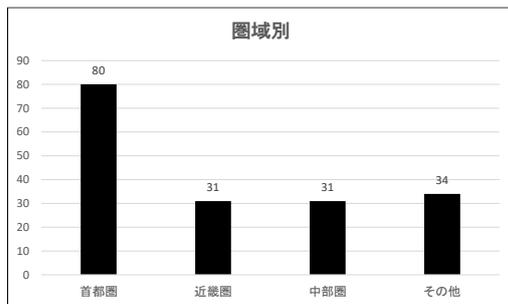
- ・派遣手続き終了箇所数 193 箇所
- ・キャンセル箇所数 17 箇所 (内、コロナウィルス関係 5 箇所)
- ・派遣実施箇所数 176 箇所 (内、オンライン併用 24 箇所)
- ・派遣アドバイザー数 200 名
- ・参加者数 4,018 名 (内、農業者 691 名)

① 月別派遣箇所数

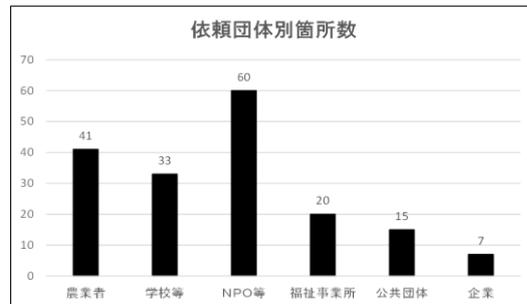


	1期	2期	3期	合計
	6月~9月	10月~12月	1月~3月	
予定箇所数	70	90	40	200
派遣手続済箇所数	47	84	62	193
キャンセル箇所数	1	9	7	17
実施箇所数	46	75	55	176

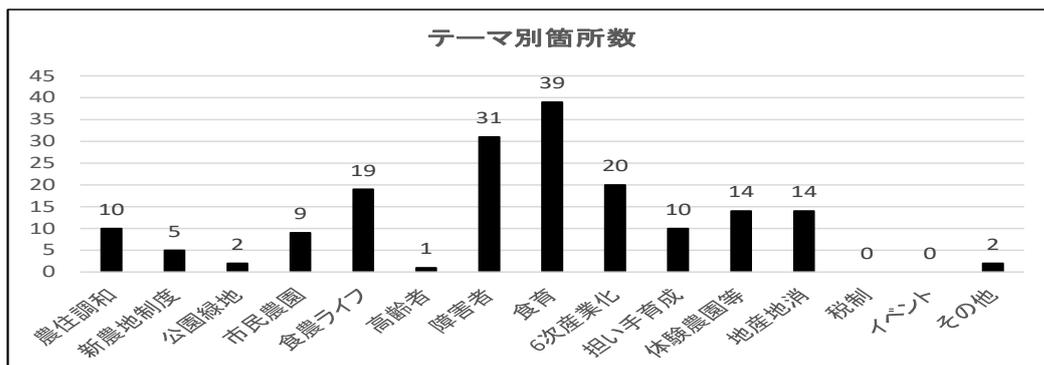
② 圏域別派遣箇所数



③ 依頼団体別派遣箇所数

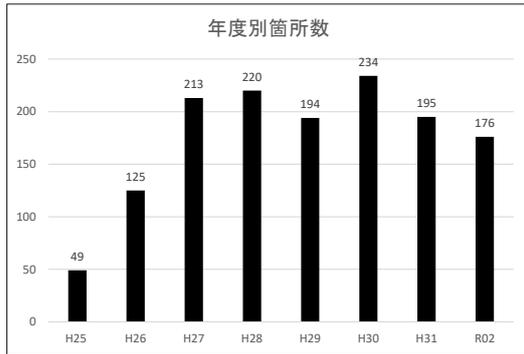


④ テーマ別派遣箇所数、参加者数

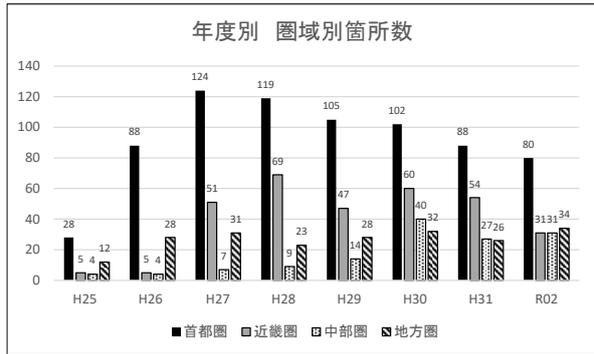


2. 過去8年間の事業推移

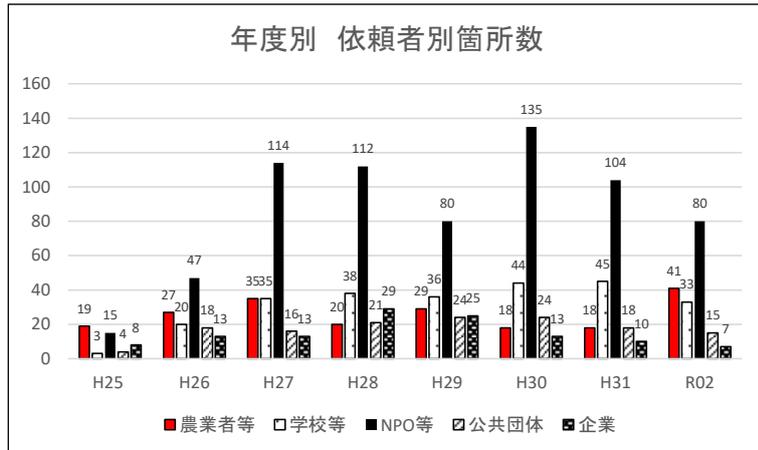
① 年度別箇所数



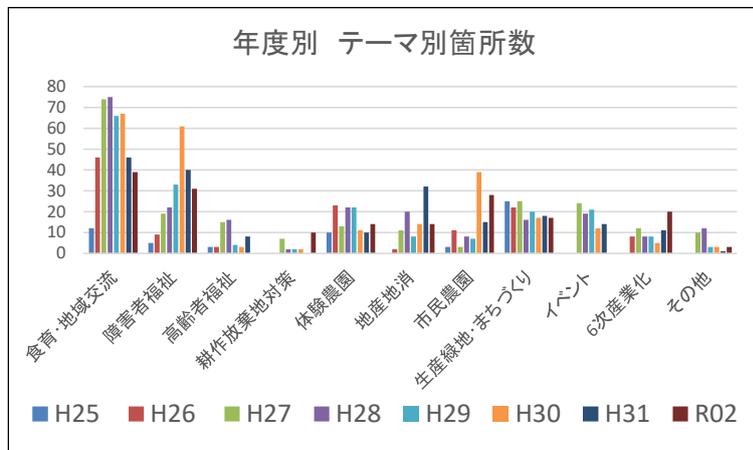
② 年度別圏域別箇所数



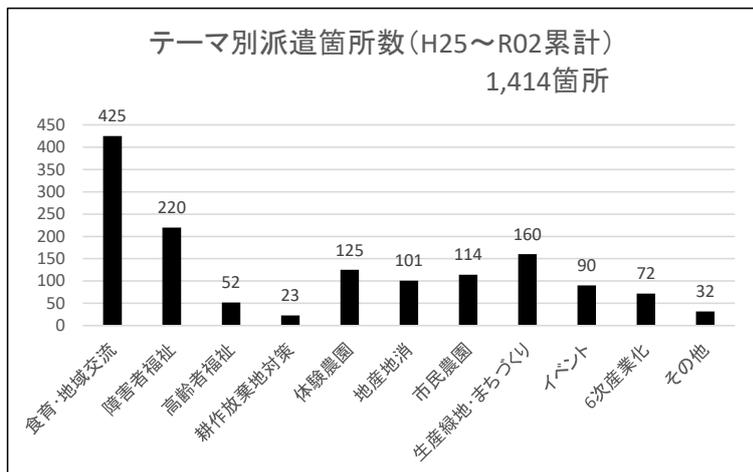
③ 年度別依頼者別箇所数



④ 年度別テーマ別箇所数



⑤ テーマ別派遣箇所数累計



3. 派遣箇所の詳細

(1) 分野別派遣箇所一覧

大分類	小分類	派遣先
(1) まちづくり 17件	① 農住調和のまちづくり 10件 [郊外での農を活かしたまちづくり、農地保全型区画整理、NT再生]	ユギムラ牧場(東京都八王子市)、 JA 兵庫六甲(兵庫県尼崎市)、 つるがや元気会(宮城県仙台市)
	② 新しい都市農地制度 5件 [一般市での生産緑地導入、都市農地貸借円滑化法による農園]	JA ぎふ(岐阜県岐阜市)、 市街化区域における農業を考える会(岐阜県岐阜市)、 岐南町(岐阜県)、 農園塾みんなパタプロジェクト(愛知県津島市)
	③ 公園と緑 2件 [屋敷林及び農地保全]	小金井市環境市民会議(東京都小金井市)、 生産緑地等所有者T氏(東京都小金井市)
(2) 市民利用 28件	① 市民農園 9件 [利用者への情報提供、開設団体の管理・運営、法制度紹介]	新居浜市自然農園を育てる会(愛媛県新居浜市)、NPO 小田原食と緑(神奈川県小田原市)、(株)フィールズファーム(新潟県新潟市)、島本町農業振興団体協議会(大阪府)、東仙台地区都市農園展開事業化研究会(仙台市)、(一社)レインボーアース(名古屋市)、島本町(大阪府)
	② コミュニティ菜園 食農ライフ 19件 [自然農法指導、加工・販売、用地確保]	ア 地域住民の野菜作りグループ等 フードエデュケーションクラブ知多(愛知県知多市)、森のようちえん・あおりんこ(愛知県知多市)、自然農・自然栽培で知多を豊かにする会愛知県知多市)、徳林寺醤油部(名古屋市)、映像発信テレレ(大阪府河内長野市) イ コミュニティビジネスへの展開 桜井ナチュラルファーム(奈良県桜井市)、コミュニティファームなないろ畑(神奈川県大和市) ウ 農的活動の空間確保 NPO コモンガーデン(愛知県長久手市)、(株)Y造園(名古屋市)、(株)Iエクステリア(横浜市)、西東京農地保全協議会(東京都西東京市)、奈良追分梅林(奈良県奈良市)
(3) 教育・福祉等 71件	① 高齢者・生きがいづくり 1件 [施設での農業指導]	すこやかデイサービス(愛知県武豊町)
	② 障害者福祉等 31件 [特別支援学校での技術指導、就労支援事業所の農福連携と収益増、農を活用した生活介護、農家側での雇用、社会的弱者支援]	ア 特別支援学校(6件) 都立あきる野学園(東京都あきる野市)、板橋特別支援学校(東京都板橋区) イ 福祉事業所/農福連携、収益増(17件) AIJ 自立の家(名古屋市)、さんすまいる伊都(福岡県糸島市)、とびしま農楽塾設立準備会(愛知県飛島村)、(一社)徳広エネルギー工房(長野県大町市)、(株)ロヴィル

		<p>(東京都文京区)、友国作業所(愛知県西尾市)、ふれあいサロンさん・さんガーデン(愛知県一宮市)、ぱにーに(鳥取県鳥取市)、日向屋(和歌山県和歌山市)</p> <p>ウ 行政・支援組織へのアドバイス(2件) (一社)ぶどうの木(千葉市)、みやぎセルフ協働受注センター(仙台市)</p> <p>エ その他(6件) (株)康臨丸(愛知県美浜町)、ASUの会・八百萬屋(堺市)、海老澤糰店(愛知県犬山市)</p>
	<p>③学校教育等の食育 39件 [総合学習、社会科等で江戸東京野菜学習、いのちと自然、農業技術指導、幼児が食農に親しむ]</p>	<p>ア 東京都小学校の授業(23件) 足立区保木間小学校、足立区栗原北小学校、足立区千寿双葉小学校、荒川区尾久宮前小学校、江東区第二亀戸小学校、新宿区立西新宿小学校、新宿区立柏木小学校、練馬区立光が丘秋の陽小学校、八王子市立みなみ野小学校、東京都市大学附属小学校、成蹊小学校</p> <p>イ それ以外の学校での授業(7件) 泉川小学校運営協議会、大生院小学校畑の先生、男の子育てサークル DADDY、新居浜市立保育園連盟(以上、愛媛県新居浜市)、星槎国際高校(東京都八王子市)、大阪市立晴明丘小学校地域園芸クラブ</p> <p>ウ 保育園等(2件) にじいろ保育園(東京都練馬区)、ちいさなほいく園みんなの里(大阪府枚方市)</p> <p>エ 自治体や民間の社会教育(7件) アートセッション(東京都練馬区)、シェフード(東京都中野区)、ひの・まちの生ごみを考える会(東京都日野市)</p>
(4)都市農業 58件	<p>①6次産業化 20件 [加工、流通、マルシェ、観光農園、体験農園、CSA]</p>	<p>ア 都市部農業者 もぐもぐファーム(東京都八王子市)、大阪府4Hクラブ連絡協議会(大阪市)、南農園(大阪府寝屋川市)</p> <p>イ 郊外部農業者 東温かんきょう農園(愛媛県東温市)、チーム能勢 CSA(大阪府能勢町)、草津市商工観光労政課(滋賀県)、ふらの樹海の里ネットワーク(北海道富良野市)、ゆうきハートネット(岐阜県白川町)、安城市役所(愛知県)</p> <p>ウ 市民サイドの取組 小山ファーム(兵庫県三田市)、オーガニックミーティング実行委員会(札幌市)、一麦会ソーシャルもぎたて(和歌山県紀の川市)、宮崎県農家I氏(宮崎市)</p>
	<p>②担い手育成や農地確保 10件 [農家・集落での環境維持、市民からの新規就農、農地利用・環境維持活動の市民グループ]</p>	<p>ア 農家・集落の取組 六尾農空間活性化協議会(大阪府泉南市)</p> <p>イ 市民サイドの取組 やしお市民大学大学院(埼玉県八潮市)、中西ファーム(東京都八王子市)、自治大学校研修(東京都立川市)、世田谷区PTA・</p>

		OB 会(東京都世田谷区)、(一社)国土政策研究会(東京都千代田区)、湘南 NPO サポートセンター(神奈川県平塚市)
	③入園方式等の農業経営 14 件 [入園方式紹介、市民参加型農業、農地制度紹介、GAP]	ア 体験農園の開設指導等 静岡県農業ビジネス課(静岡市)、ぱんぶービレッジファーム(東京都町田市)、里山農耕(岐阜県美濃加茂市) イ 市民と連携した農業経営 モリノハコ・コドモ舎(大阪府高槻市)、(一社)GUILD(愛媛県松山市) ウ 若手農業者の勉強会 富澤ファーム(東京都三鷹市)
	④地産地消 14 件 [セミナー、ワークショップ、商品開発、伝統野菜、マルシェ、研究の素材]	ア 飲食店・関連企業 シャープ株式会社(大阪府八尾市)、PARITALY(東京都小金井市) イ 市民団体 難波葱の会(大阪市他)、森川喜市商店(東京都豊島区)、鎌倉大根未来研究クラブ(神奈川県鎌倉市)、鶴巻図書館(新宿区)、大坂ぐりぐりマルシェ実行委員会(大阪市)、(一社)グリーンカラー(大阪市他)、持続可能な地球生活を実践謳歌する会(奈良県奈良市)、フーズフォーチルドレン愛知(愛知県東郷町)、愛農消費者の会(東京都新宿区) ウ 農業者の取組 東京淀橋市場(東京都新宿区) エ 学生の研究活動 八王子東高校(東京都八王子市)
(5)税制その他 2 件	①その他 2 件 [防災協力農地の紹介]	兵庫県楽農室

(2) 各箇所の取組内容

1) 農住調和のまちづくり

① まちづくり協議会等へのアドバイス

○ ユギムラ牧場(東京都八王子市)

市郊外の農地を利用して農のある地域づくり、農福連携を實踐中。



○ JA 兵庫六甲 (JA 兵庫六甲 都市農地利用相談センター)

尼崎市 K 地区で従来型の区画整理でなく、都市農業・都市農地を巡る状況を踏まえた新しい農住調和型の組合区画整理を模索。

○ つるがや元気会 (仙台市)

仙台市郊外のニュータウン再生の中での緑空間を活用した農的活動の可能性検討。

2) 新しい都市農地制度

① 農業委員会、JA 等での農業者・農業関係者向け講演会

○ JA ぎふ (岐阜県岐阜市)

組合員に対し、生産緑地制度、都市農地貸借円滑化法等を説明



○ 岐南町役場 (岐阜県岐南町)

都市農業振興地方計画の策定に向け、法制度等の説明

② 市民団体が開催する勉強会での新しい都市農業・農地制度の説明

○ 市街化区域における農業を考える会 (岐阜県岐阜市)

農業関係者を対象に生産緑地制度、都市農地貸借円滑化法、関連税制を説明

③ 自治体等の具体的な取組へのアドバイス

○ 岐南町役場 (岐阜県岐南町)

地方計画を策定し、生産緑地導入を計画している町担当者及び JA 担当者へのアドバイス

○ 農縁塾みんパタプロジェクト (愛知県津島市)

都市農地利用と伝統の食の復活をつなぐ活動をしている地域グループが、生産緑地を活用して都市農地貸借円滑化法を用いて農園塾を開設

3) 公園と緑

○ 小金井市環境市民会議 (東京都小金井市)

緑政策に提言を出す組織

法改正で、緑地の中に農地が含まれることとなったことから農地保全を検討

○ 生産緑地等所有者 T 氏 (東京都小金井市)

T 氏所有の農地、屋敷林の保全方策を助言

4) 市民農園

① 市民農園利用者への情報提供 (自然農法、伝統野菜)

○ 新居浜市自然農園を育てる会 (愛媛県新居浜市)

新居浜市自然農園は耕作放棄地等を利用して市内に 39 農園。

農薬や化学肥料を使わない野菜作りを目指しており、「新居浜市自然農園を育てる会」が主体となり、自然農園の運営を行っている。

そのうち、東高前農園及び舟木 C 農園の利用者を対象に NPO 大地といのちの会の吉田俊道氏が「生ごみリサイクル・菌ちゃん野菜作り」を紹介・現地指導。



○ NPO 小田原食とみどり(神奈川県小田原市)

小田原に産地を持つ生協が、生産者と消費者の交流を図るために作ったグループで、耕作放棄地を借りて会員が農作業と収穫しているが、その一角で市民農園を開設している。

貸農園利用者の希望により有機農法での野菜栽培法を助言。



② 市民農園開設団体への情報提供(管理・運営)

○ (株)フィールズファーム(新潟県新潟市)

造園業者が、耕作放棄地を活用して体験農園を運営しているが、新たに、デンマークの市民農園「コロニーハーヴ」を目標に市民農園を開設したい。



○ 島本町農業振興団体協議会(大阪府)

耕作放棄地等を活用し市民農園を開設運営している組織。

民間の市民農園運営事業者からノウハウを学びたい。

○ 東仙台地区都市農園展開事業化研究会(仙台市)

払下げ予定の国有地を活用して、受刑者の社会復帰を支援する農園整備を検討。

○ 一般社団法人レインボーアース(名古屋市)

女性活躍を目指し地域でのカフェ運営。農泊、市民農園分野への進出を検討中。

③自治体等へのアドバイス

○ 島本町役場(大阪府)

新しい都市農地制度と市民農園制度について説明。

5) コミュニティ菜園、食農ライフ

① 地域住民の野菜作りグループ等への自然農法指導

○ 徳林寺醤油部(名古屋)

徳林寺は、名古屋郊外の寺院で定期的な朝市、ワンディカフェ等を開催しているが、活動の一つ「醤油部」は、手作りの醤油づくりの仲間(50人グループ)。

メンバーの畑(常滑市 1,000 m²)で手のかからない大豆づくりや麦づくり。

○ フードエデュケーションクラブ知多(愛知県知多市)

知多市で自然派料理教室を営むメンバーを中心にした近所の農作業好きなママ友等の集まりで、野菜・ハーブ作り、ピザパーティを楽しんでいる。

メンバーの庭 50 m²を利用。玉葱、エンドウ豆、イチゴの自然栽培の指導。

○ 森のようちえん・あおりんこ(愛知県知多市)

自然型ようちえん(親子 15組(週 1日)、通いの児童 7人)を主宰。

50 m²の宅地を利用、無農薬で大豆を作り、子供たちと味噌・醤油を作りたい。

今後は空き家活用も考えている。



○ 自然農・自然栽培で知多を豊かにする会(愛知県知多市)

自然育児、環境問題に関心のある人など、友人関係の集まり(約 20人、20代から 50代の女性が 9割)。

生産緑地 1,500 m²を借りて大豆を中心に自然栽培、新たに玉ねぎ栽培を計画。

○ 映像発信てれれ(大阪府河内長野市)

「映像発信てれれ」は、映像制作のプロ、古民家を買取り、大阪府河内長野市の郊外に引っ越し「農ある暮らし」を実践。

各種ドキュメンタリー映像制作しながら敷地内の 200 m²の小さなコミュニティ畑を運営、野菜作りに興味をもつ地域の 5団体及び個人 15人ほどと定期的に活動を継続している。

② コミュニティビジネス(加工、販売等)への展開

○ 桜井ナチュラルファーム(奈良県桜井市)

農家の手に余った農地約 100 m²を借り区画し、各人がやりたいものを作り、共同区画で大豆を栽培。(農園小屋を拠点)作ったものをマルシェで販売したい。

○ コミュニティファームなないろ畑(神奈川県大和市)

株式会社なないろ畑(農地所有適格法人)が貸借している土地を利用し、任意組織コミュニティファームなないろ畑を運営(収穫物を購入する野菜会員 43 名、農作業を手伝うその他会員 57 名)。CSA など、儲かる農業に関心がある。

③ 農的活動の空間確保

○ NPO コモンガーデン(愛知県長久手市)

NPO コモンガーデンは国の緑地環境実証調査の後、「まちなか農園」を運営する組織として誕生したが、東山地区(モリコロパークに近いエリア)の耕作放棄地を利用し、市民参加型農園を開設することとなった。

○ Y 造園(名古屋市)

寺社の 300 m²程度の未利用地を菜園にし、地域に開放する予定。
津島市農縁塾民パタの経験を参考にしたい。

○ I エクステリア(横浜市)

造園コンサル会社が、今後屋上菜園事業に乗り出すことを考えているが、特に野菜作りやそれを使ったイベントプログラム等についてイメージを作り、機運を高めるための社内研修を行いたい。

○ 西東京農地保全協議会(東京都西東京市)

メンバーの一人の農家の所有地(一反弱)を利用してコミュニティ農園「みんなの畑」を運営(15 名)



○ 奈良追分梅林(奈良県奈良市)

由緒ある観光地「追分梅林」は近年梅林の荒廃が目立っており、それ以外の園地は市民等からなる「追分コミュニティ」を中心に、福祉農園、子供向け食育農園等に活用している。

各人の活動をまとめた組織づくりのあり方と今後の事業展開の方向の助言を受けたい。



④ 農業公園での農業体験プログラム支援

コロナ感染症対策で、今年度は実施事例なし。

6) 高齢者・生きがいづくり

① 介護施設等での農作業指導

○ すこやかデイサービス(愛知県武豊町)

診療所(外来、訪問)を中心にした高齢者支援事業所の一部門としてのデイサービス(通所介護)で、施設内では作業をすると施設内通貨「鶴亀」通貨発行、他のサービスに充当するという仕組みを実践。

農業班は、敷地内の 500 m²の畑でムクナ豆を栽培、ムクナ豆は武豊町が推奨、自然農法にも馴染む。今年は醸造所に持ち込み、みそ・醤油にする計画

② 「農」の効用の普及・啓発の講演

今年はコロナ感染症対策下で、高齢者施設での活動は抑制され、実施例はなかった。

7) 障害者福祉等

① 特別支援学校の農業実習での技術指導

○ 都立あきる野学園(東京都あきる野市)

高1~高3の身体障害児15名を対象とした学習(自立活動)で、地元伝統野菜である「ノラボウ菜」の栽培、収穫指導。テラスのプランターを利用して栽培している。



○ 板橋特別支援学校(東京都板橋区)

高1~高3の知的障害児合同の農業班10名を対象に地元伝統野菜である「志村みの早生大根」とブロッコリーを栽培、沢庵づくりも指導。

校庭に90 m²の農園と2階建て屋上に75 m²(深さ1m)の農園がある。



② 福祉事業所での工賃向上に向けた 6 次加工に関する経営企画等のアドバイス

○ AIJ 自立の家(名古屋市)

今回、新たに B 型事業所を建設、敷地内に農場を整備し、農作業に取り組むことになった(6 名)。今までもワイナリーには取り組んでいる。



○ さんすまいる伊都(福岡県糸島市)

さんすまいる伊都は NPO 法人で障害者就労支援の福祉事業所、スマイルファームは農業生産法人。

さんすまいる伊都の利用者が施設外就労で、スマイルファームの耕作や調整作業を手伝い、さんすまいる伊都で作ったシイタケ加工品を JA 組合員であるスマイルファームを通して出荷

○ NPO 法人とびしま農楽塾設立準備会(愛知県飛島村)

相続により農地所有者となった障害者福祉の研究者が自ら福祉事業所と連携した農業経営体を立ち上げる計画。



○ 一般社団法人徳広エネルギー工房(長野県大町市)

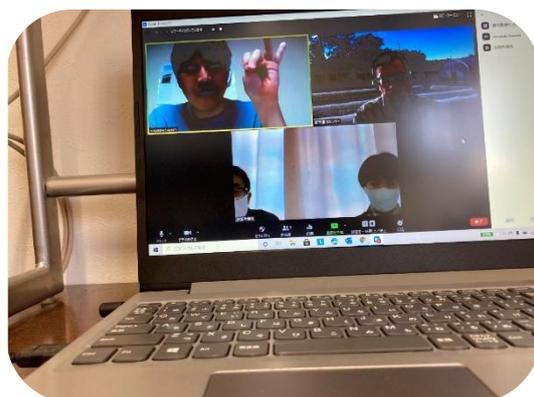
周囲には別荘が多く、薪、ペレット、ストーブのメンテナンス等を行う中で B 型事業所を立ち上げた。遊休化している水田作業の受託や別荘を利用した農泊も考えている。

○ (株)ロヴィル(東京都文京区)

農や食に関する HACCP や GAP の取得支援をするコンサルタント会社、今後の顧客拡大を考え、農福連携を勉強したいと思っている。

○ 友国作業所(愛知県西尾市)

障害者の就労支援・生活支援を行っている多機能型福祉事業所。イチジク農家と協議し新たに、イチジクジャム製造に取り組みたいと考えている。



○ NPO ふれあいサロンさん・さんガーデン(愛知県一宮市)

就労継続 B 型、生活介護、生活訓練の福祉事業所(農作業への参加者は夫々、5 名、10 名、10 名程度)。畑 3 カ所を確保、整備し収穫物を近所の直売所で販売する計画。



○ ぱにーに(鳥取県鳥取市)

B 型事業所。作ったパンを病院、老人ホームに搬入していたが、コロナで売り上げが激減コロナ下の現状にどう対応したらよいか、助言を得たい。



○ 日向屋(和歌山県和歌山市)

日向屋(移動販売)は根来寺での福の実マルシェを主宰してきたが、今般本業に関し、県産米粉を使ったグルテンフリーのベビーカステラの製造・販売に取り組む。

コロナで府県間移動が制限され、1 回しか実施できなかった。



③ 行政・支援組織へのアドバイス

○ 一般社団法人ぶどうの木(千葉市)

千葉県内を中心に農福連携を推進するプラットフォームを目指す一般社団法人ぶどうの木の設立記念講演会



○ **みやぎセルフ協働受注センター(仙台市)**

農業に関心のある福祉施設の職員を対象とした研修。

施設外就労を受け入れる上での農家の課題、観光と農業を掛け合わせた事業展開等について議論がなされた。

○ **調布市環境政策課(東京都)**

買い取った生産緑地を活用して農福連携の推進拠点施設を検討中。



④ 「農」を活用した生活介護の場での農業技術指導等

○ **(株)康臨丸(愛知県美浜町)**

精神疾患患者の訪問看護・リハ・デイの事業所。引きこもり患者を外に連れ出すために農家から約8反の農地(生産緑地)を借り、農作業(無農薬・ニンニク、大豆等)を実施。



⑤ 幅広い社会的弱者支援の市民活動等

○ **NPO ASU(アクティブ・シニア・ユニオン)の会・八百万屋(堺市)**

泉北ニュータウンをメインフィールドに、エコ循環(食用油)、市民向けカルチャー教室・サロンなどの活動を行ってきたが、新たにニュータウン周辺の未利用農地を活用しまちかどステーション=地域共生ステーション(障害福祉中心の八百万屋)を立ち上げ農業技術を指導。

⑥ 特例子会社

今年度は該当なし

⑦ 農家側からの障害者雇用リクエスト

○ **海老澤糎店(愛知県犬山市)**

海老澤糎店は米糎などの糎屋さん、オーガニックビレッジは近々に設立予定の農事組合法人の名称(仲間の所有する農地は水田、畑の5,000㎡)

農事組合法人が米を作り、とれた米を使った糎造りを福祉事業所にやってもらう。

8) 学校教育等の食育

① 東京都内の小学校での授業(総合学習、社会科等)

東京都内の小学校で、江戸東京・伝統野菜研究会の大竹道茂代表を中心にしたグループが江戸東京野菜を起点に、地域の歴史・地理、食育、実地栽培に広がる授業支援に取り組んでいる。

○ 足立区の各小学校での取組(東京都足立区)

足立区の江戸東京野菜は千住葱。足立区では区農業委員会が全面的にバックアップし、千住葱への理解を深めるため、各小学校の4年生を対象にした授業の中で「命をつなぐ 千住葱栽培授業」として、千住葱の栽培体験を取り入れている。

年間の授業内容は、6月の種の伝達式(+講演)から始まり、その後の播種、定植、翌年2月の収穫、4月の種採取という流れであり、11名の農業委員が夫々3校ずつの小学校を分担して、全体の段取りサポート、資材提供、播種・定植等の指導、圃場管理(1回/週の見回り)を行っている。

以下の学校の「種の伝達式」に合わせた講演者としてアドバイザーを派遣し、地域の地理・地形と歴史、ネギの種類、千住葱の由来、実際の栽培方法を説明・指導した。



- イ.保木間小学校 4年生 58名「千住ネギ～みんなで育てよう」
- ロ.栗原北小学校 4年生 85名「千住ネギ～みんなで育てよう」
- ハ.千寿双葉小学校 4年生 60名「千住ネギ～みんなで育てよう」

○ 荒川区立尾久宮前小学校(東京都荒川区)

4年生2クラス46名 荒川区(旧名三河島)の伝統野菜「三河島菜」。
最初は小学校の栄養士さん「地元野菜を食べさせたい」という協力依頼からスタート。
校庭敷地1m×40mの空地利用で栽培、将来は学校給食での利用を考えている。

○ 江東区立第二亀戸小学校(東京都江東区)

4年生3クラス105名 地元伝統野菜(亀戸大根)の歴史、都市農業について講義。
校庭の花壇を利用して栽培、早春に収穫し、晩秋に前の年度の4年生から「命の伝達式」を行い、播種する。

○ 新宿区立西新宿小学校(東京都新宿区)

実地栽培(校庭の花壇 7.2 m²)、地元農家との交流を実施している。

5年生 2クラス 45名 地元伝統野菜(内藤カボチャ、内藤唐辛子)、都市農業の講義

西新宿小学校の5年生は総合的な学習で受け継いでいきたい学校の伝統として内藤カボチャをテーマにしたイベントづくりを行っているが、今年は給食時に全校児童にカボチャプリンを提供することとなった。

○ 新宿区立柏木小学校(東京都新宿区)

4年生 1クラス 40人 地元伝統野菜の鳴子瓜(真桑瓜の一種)の栽培方法の指導。

校庭の一角 5 m²で栽培、秋に収穫し栄養教諭の指導にの下フルーツポンチとして食べる。

○ 練馬区光が丘秋の陽小学校

3年生 2クラス 67名 地元伝統野菜の練馬大根

の話をし、種まきを指導。

以前は、周辺農家の畑を学校農園として借りていたが、農家に相続が発生し、借りることができなくなってしまったため、校庭の花壇を利用している。

なお、隣接して「練馬区立秋の陽公園」があり、公園内の水田では、区内の各校が田植えをしており同校の5年生ももち米の苗を植えている。



○ 八王子みなみ野小学校 4年生 3クラス 113名

敷地外の市有地 280 m²を借地、春に3年生3学期に川口エンドウを植え付け、4月に収穫し、4年生の9月に高倉大根の栽培、秋に収穫するという、農を軸にした総合学習の通年プログラム。農作業以外では、食料問題の学習、地域の自然の見学等。

○ 東京都市大学付属小学校ミクニレッシン

4年生 80名(東京都世田谷区)

地元食材にこだわりが強い三國清三シェフは、テレビ番組「ようこそ先輩」出演をきっかけに、東京都市大学付属小 4年生を対象に、保護者も参観した「ミクニレッシン」を行っている。(年 12回、プランターで野菜を育て、日本の食文化や食事のマナー、地域食材について勉強し、最後に収穫した野菜で調理実習と試食を行う。)

今回はコロナ対策下、東京べかな、金町こかぶ(江戸伝統野菜)、はつか大根、ロメインレタス、水菜、西洋ふだん草(スイスチャード)を栽培し、年が明けてから「調理実習」で野菜サラダにして賞味。

The collage includes a brochure titled 'ミクニレッシン 2号' with a photo of a man and text about the program. It also features a list of vegetables: 1) 東京べかな, 2) 金町こかぶ, 3) はつか大根, 4) ロメインレタス, 5) 水菜, 6) 西洋ふだん草(スイスチャード). Below the list is a diagram of a garden plan with two sections: 'こかまとのスペース' and 'コロナ禍のまねきスペース (2020.11.16)'. The plan shows various plants in a grid layout with labels like '育てる野菜' and '育てる野菜'.

○ 成蹊小学校 4年生 126名(東京都武蔵野市)

成蹊小は、1年生～6年生まで、総合学習(週2時間)で「園芸」を学んでいる。

校内には、4,000㎡強の実習畑があり、各クラスが区分して野菜を栽培している。

1年生(カブ、大根)、2年生(白菜、エダマメ)、3年生(蔓ありインゲン)、4年生(ジャガイモ)、5年生(夏野菜)、6年生(綿→出荷)。

江戸東京野菜について4年生に講義し、江戸東京野菜の「べか菜(山東菜)」を栽培。



② 上記以外の学校での授業、研修

○ 新居浜市での地域ぐるみの取組(愛媛県新居浜市)

教育長が NPO 法人大地といのちの会理事長吉田俊道氏の話聞いて感銘を受けたのが契機となり、その後毎年幾つかの小中学校で吉田氏による講演会を実施。また、それに合わせて新居浜市が主催して市民農園参加者への講演、栽培指導を吉田氏に依頼している。(市民農園の項に記載)

吉田氏の「生ごみリサイクル・菌ちゃん野菜作り」の提案:

生ごみを使った土づくりをすると元気な有機野菜が育つ。そのことを通じて、汚いと思っていた生ゴミからきれいでおいしい野菜ができる即ち「すべてのものは土から生まれて土に還る」ことを実感してもらう。

イ. 泉川小学校運営協議会 2年生 111名

児童が栽培している畑を見せられ、それを踏まえた講義「おしえて! やさいの先生」

ロ. 大生院小学校畑の先生 2年生、3年生 78名

地域の農業者(畑の先生)の指導を受けて児童が栽培している畑を見せられ、それを踏まえた講義「食育」

ハ. 男の子育てサークル DADDY 中萩中学校 157名

生徒が栽培している学内の花壇を見せられ、それを踏まえた講義「食育」



免疫力を減らさない
あいうべ体操 菌周病・菌原病予防
安いお菓子やジュースをやめる
携帯電話を遠ざけて寝る

ココロ
笑い・感謝(ごめんね、おかげさまで)
有用感(何か役に立ちたい)
安心(信心・覚悟)

病原菌が増えることのできない健康体

有用菌だらけになる
(キレキレ、プカプカうんこ)
よく噛む(口の中へ食べ物がある時、牛乳・味噌汁・その他液体を入れず)
空腹時間を増やす
無添加発酵食品を選ぶ
旬の野菜
おなかを手での字に回す
おなかを冷やさない
肉食を控える

生命力に重要な微量栄養素
主要、微量ミネラル
煮干し・頭ごと小魚・昆布・雑穀・未精製油・エゴマ
抗酸化成分(ファイトケミカル)
野菜の皮・生長点、玄米
※玄米おかゆと野菜スープ

オーガニックの米、野菜は、有用菌や微量栄養素の宝庫!

4週間で体と心を変える! おなか畑の土作り

やさいの根を見る

※しき葉を取って表面の根を観察します。(特にきゅうりが観察しやすい)

畑がびっしり土をつかんでる。

微生物ってすごいね。

根は微生物から生理活性物質を吸収しています。

土には、目に見えないとっても大切な微生物がいて、それが野菜の元気につながっているんだよ。

人体図を見る

ぼくの体の中も野菜と同じ!

ぼくたちも野菜と同じように、ねっこみだいな小腸から、生命力(生理活性物質)が吸収されている。

食べることで、小さな命たちが私とつながり、私を支えてくれているんだね。

ニ. 新居浜市私立保育園連盟 保育士等 30名

東川河川敷にあるミレニアム花壇等を視察の後、それを踏まえた講義「食育や野菜のことを保育園児にどう伝えるか」



○ 八王子市星槎国際高校（東京都八王子市）

星槎高等学校は、通信制を取入れた高校で、引きこもり、不登校等の生徒も多く、生徒によって登校日数／週を自由に設定できるという特色がある。

<体験型ゼミ「キッチンカーゼミ」>で専門家の畑で金町コカブを栽培、キッチンカーで調理し、校内、イベントで販売する取組

○ 大阪市晴明丘小学校地域園芸クラブ（大阪市）

大阪市立晴明丘小学校は全国でも珍しく、児童の自然観察学習の場として校内に「自然観察学習園」が整備されており、学校、PTA、地域園芸クラブが連携して運営を行っている。園にはピオトープ、田んぼや畑、花壇があり、季節の花や野菜（なにわの伝統野菜など）が植えられ、トンボや蝶などの昆虫観察のほか、園内の田んぼを活用した米づくり体験（5年生）、社会学習「私たちの大阪」の一環としたなにわの伝統野菜の栽培（4年生）など、多様な科目の学習の場となっている。

今回は、専門家が園芸クラブメンバーに浪速伝統野菜について講義した。



③ 保育園等

○ にじいろ保育園（東京都練馬区）

3歳児～5歳児 60名

コロナ対策の観点から、屋内ではなく野坂さんの畑に行き、カブ、ホウレン草、小松菜などを収穫し、子供たちから色々質問をもらう

○ ちいさなほいく園みんなの里（大阪府枚方市）

JAS 有機農家である地元農家と消費者（保育園の親子等）が気持ちよくつながることのできる関係作りをテーマに、20組ほどの親子が、イチゴ農家から話を聞き、イチゴ狩りをする親子農業体験プロジェクト

○ 大阪市山口果物店

昨年来、多くの保育園での食育に取り組んできた山口直克氏（大阪で果物屋を営む）は、今年はコロナ対策についての父兄の不安が強く一箇所も派遣実施が出来なかった。

④ 自治体や民間団体での社会教育

○ アートセッション（東京都練馬区）

練馬区の市民団体が、区の特徴であり、人とは切っても切れない大切な「農業」を持続させるために区民に何が出来るのかをテーマに、アートを通して参加者と農を考えるワークショップを開催した。

○ (一社)シェフード(東京都中野区)

シェフードは有名シェフが会員で、食を通じた地域貢献活動を行う社団法人

コロナ下の状況を踏まえ、三密に配慮し、中野区上鷲宮小学校 1 年～6 年 451 名を対象に江戸東京野菜の講義と、早稲田ミョウガ等を食材とした料理 3 品を賞味してもらうイベントを実施

○ ひの・まちの生ごみを考える会(東京都日野市)

日野市で生ゴミ堆肥作りとコミュニティ型体験農園を実践しているグループ

市民向けイベントとして、映画「いただきます～ここは発酵の楽園」の主人公(吉田氏)と監督(オタビン氏)のトーク&映写会を開催。

9) 6 次産業化

① 農業者等による取組(都市部)

○ もぐもぐファーム(東京都八王子市)

八王子で 5 反の農地(生産緑地)でニンニク、ハーブ、トマトを栽培し、チーズやオリーブを加えた保存食を作っているが、周辺農家の規格外作物を利用し規模拡大し、新たに食品加工場を建設する予定。資金調達に向け補助金活用、融資等の相談をしたい。

○ 大阪府 4H クラブ連絡協議会(大阪市)

4H クラブは新規就農者や若手農業者の集まりだが、大阪府協議会では定期的にマルシェ(軽トラ“タ”市)を開催しており、専門家の助言を得て集客力のアップを図りたい。



○ 南農園(大阪府寝屋川市)

寝屋川市の生産緑地 15,000 m²(南農園)でイチゴ栽培、ブドウ園、サツマイモ・ジャガイモ収穫体験、など観光農園を目指しており、その魅力を高めるために、ハーブ園を整備することとしたので、栽培品目・栽培法、ガーデニングやレイアウトなど、市民を楽しませる工夫の仕方を教えて欲しい。

② 農業者等による取組(都市周辺)

○ 東温かんきょう農園(愛媛県東温市)

役場を退職後に素人百姓を始め、夫婦で米作、野菜、ハーブ栽培を行い、ボランティアや福祉事業所の協力も得て、農協・産直市・学校給食センター等に卸している。

新たに、ハーブをテーマにしたミニ観光農園を立ち上げると共に、ハーブを利用した書品開発に挑戦したい。ハーブ専門の農家と 6 次加工に詳しい専門家のアドバイスが欲しい。

→当日は、6 次加工の専門家が現地で、ハーブ専門の農家はオンラインで助言した。



○ チーム能勢 CSA(大阪府能勢町)

能勢の農家と大阪市内の農家を CSA で繋ぐ活動をしているグループ(消費者に能勢に来てもらう方法と、大阪市内に持ち込む方法の併用を想定)

CSA は関西ではまだ事例が少なく、直接消費者に販売するのは初めてであり、消費者と繋がる方法、価格設定、有機農業 JAS 等について助言した。

○ 草津市役所商工観光労政課(滋賀県草津市)

琵琶湖沿いの遊休農地(大規模ハウスのある農家)等を対象に観光農園・収穫体験(ホウレン草、ワサビ菜、水菜、壬生菜、メロン)への取組を呼びかけるに当たって、観光農業の専門家から助言を得たい。

○ NPO ふらの樹海の里ネットワーク(北海道富良野市)

市民と交流することで地域を活性化することを目的とした、6名ほどの農家の集まり

NPO の運営する圃場で周辺中学校、高校と協定し、生徒農業体験事業を実施。

今後は、対象を広げた農園ツアー、6次加工、農家と園ボラのマッチング等に取り出し、NPO の経営を拡充したい。

○ ゆうきハートネット(岐阜県白川町)

自分たちの農業を活性化するために CSA 的な農業、アグリツーリズムを模索しているグループで、宿院など名古屋でのマルシェにも参加している。

今後の事業拡大に向け、都市住民の体験型農園、アグリツーリズム、農業教室(生ゴミ堆肥作り)、周辺農家との連携等について助言を得たい。

○ 安城市役所(愛知県安城市)

約 4 ヘクタールの名古屋コーチン種鶏場跡地について、諸外国の事例等を踏まえた都市農業振興の観点からの利活用の方向について

③ 市民サイドでの取組

○ 小山ファーム(兵庫県三田市)

加東市で趣味で畑を借りて農業をしていたが、現在は三田市に事務所を開設し、地域の農作物を消費者に販売する流通業を行っている。

新たな業務展開として地元の様々な業種の人達と協力し、ロス野菜を使った加工場の開設を考えている。



○ オーガニックミーティング実行委員会(札幌市)

札幌の直売所ネットワークづくりを進める若手市民グループ

名古屋市でこうした活動に実績のある専門家の助言を得て、中心商品の羊肉出店を想定している牧場等との連携を進めたい。

○ 宮崎市 I 氏

I 氏は、三重県から U ターンした料理人だが、本業に合わせ、宮崎で農作物の直売所・マルシェのネットワークづくりのコーディネーターになりたい。

そのため、名古屋で実績のある専門家の助言を得たい。

○ 社会福祉法人一麦会ソーシャルファームもぎたて(和歌山県紀の川市)

一麦会は、一麦会は紀の川市周辺の農家から米を仕入れ、農福連携により米粉に加工・販売している事業所。

日本とアジア、世界を繋ぐアジア最大級の食品展であるフードックス・ジャパン(国際食品・飲料展) 2021 幕張メッセの「米粉パピリオン」にブースを出店し、米粉の PR、説明を行う専門家を派遣して欲しい。



10) 担い手育成や農地確保等

① 農家・集落の取組

○ 六尾農空間活性化協議会(大阪府泉南市)

大阪府農空間保全条例に基づき、泉南市信達六尾(シンダチムツオ)集落の地域の農業者等が設立した組織で、高齢化している中で、鳥獣被害、耕作放棄地増加に対応し、農地をどう保全利用するかという課題に取り組んでいる。

全国の事例、法制度、補助制度等を助言。



② 市民サイドの取組

○ やしお市民大学大学院(埼玉県八潮市)

退職を機に農業に本格的に取り組むため、市民大学講座の大学を修了して大学院に入っている者を対象に都市農業、都市農地制度、地産地消・農作物流通等を全般的に講義

○ 中西ファーム(東京都八王子市)

民間の就職・転職斡旋企業が新たに農業に取り組もうとする都市住民を募集し、中西ファームが農業技術を伝授、新規就農者として訓練し、企業が担い手を求めている農場・農地へ送り出すというスキームを専門家がコーディネートやトレーニングプログラム作成等の助言を行い試行的に実施。

○ 自治大学校研修での課題研究(東京都立川市)

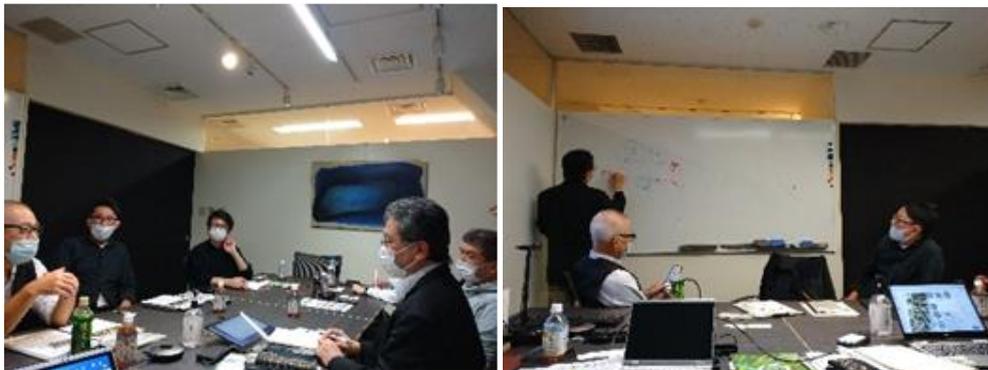
自治大学校に派遣されている自治体職員のグループが、課題研究として、メンバーの一人の出身市での廃校跡地利用による都市農業の振興をケーススタディ

○ 一般社団法人国土政策研究会(東京都千代田区)

地方の活性化を進めるための提言をまとめる上で、遊休化している農地を活用して新たな農業を創出することがポイントと考えており、農地・農業政策・制度について基本的な知識を得たい。

○ 世田谷 PTA・OB の会（東京都世田谷区）

生産緑地で十分な営農がされていない農地を利用し、市民農業をやろうという考えを持つ有志で作った会。高齢の農地所有者から農地を借りる上で新しい農地制度（貸借円滑化法、相続税の納税猶予制度）を活用する方法、注意点等について、正確な知識を得たい。



○ 湘南 NPO サポートセンター（神奈川県平塚市）

平塚市内で伊勢原市との境に近い都市郊外地域内の休耕田を利用し、農業体験の場やレンゲ畑にし、交流の場とすることによって高齢者を元気にするプロジェクトを検討

11) 入園方式等の農業経営

① 体験農園の開設指導等

○ 静岡県庁農業ビジネス課（静岡県静岡市）

農業体験農園の開設に興味がある農業者等を対象に魅力・運営方法等に関する講義を実施。（体験農園の魅力、開設・運営方法、開設に必要な経費、設備、経費、収益計画）

県内 3 ブロック（県西＝三島市 8 名、県中＝藤枝市 22 名、県東＝磐田市 10 名）で、会場を設営し、専門家がオンラインで講義を行うという方式



○ バンブービレッジファーム（東京都町田市）

約 1.3 ヘクタールの農地を借りての新規就農 7 年目、コミュニティ農業に向け、イベントなどの企画や販路の開拓、大学との連携、多摩地域の市民との懸け橋が現在のテーマ。

町田市市制 60 周年記念事業「まちだ〇ごと大作戦」助成事業で採択された「畑 de コンサート」のグレードアップ、農園来場者数増加への工夫等について助言を得たい。

○ 里山農耕（岐阜県美濃加茂市）

兼業農家 8 名のグループ、周囲に耕作放棄地が増えているので、その整備・再利用を考えているが、その方法として、都市部の市民がする市民参加型農園を構想している。

名古屋周辺（津島市）で実績のある専門家の助言を得、現地も視察したい。



② 市民と連携した農業経営

○ モリノハコ・コドモ舎(大阪府高槻市)

市街化区域内農地 2 反(これまでもモリノハコ・コドモ舎として子供や引きこもりの居場所づくりを実践)について緩やかな体験農園方式にステップアップし、市街化調整区域内農地 3 反について大豆栽培をベースに味噌・豆腐等への加工につなげることを提案。

○ 一般社団法人 GUILD(愛媛県松山市)

農業法人(果樹園)に勤務しつつ、兼業で農地を借り、オフグリッドハウス(自然エネルギーを利用した施設)のある家庭菜園を整備し、普及・販売する新ビジネスを模索中。しそれを通じて 6 次産業化も考えたい。

農地制度、6 次産業化等の専門家がオンラインで参加・助言。



③ 若手農業者の勉強会

○ 富澤ファーム(三鷹市)

府中、三鷹、八王子等都内の若手農家の勉強会。

オンライン会議で、普段は話すことのない市を跨いだ農家の交流を行い都市農業で悩みや課題を共有した。(農家の相続問題、新型コロナウイルスによる対策や補助金、農協との関わり方、市民との交流のあり方、収益性を高めるため工夫、東京 GAP 等)

また小松菜農家の K さんの話を聞き、効率化した営農方法、労働時間や労働生産性を高める方法、細かい農薬管理等について意見交換した。

12) 地産地消

① 飲食店・関連企業の取組

今年はコロナ感染症対策の中で飲食店を取り巻く状況は厳しく、実施例はオンラインで実施されたシャープのイベントを含め 2 件のみであった。

○ PARITALY(東京都小金井市)

小金井市の地元農家から野菜を仕入れ、八百屋と総菜屋(固定販売・移動販売)を経営する個人企業。

観光まちおこし協会主催のイベントで近所の農園で芋掘り体験、焼き芋食べ比べ(安納芋と紅はるか等)、ジェラート、畑の蔓を使ったワークショップ。これと並行して、専門家が小金井市の農業や農地のことを説明



○ シャープ株式会社(大阪府八尾市)

シャープは、電子レンジ、冷蔵庫など食に関する商品販売を行っているが、その企業イメージを高め、顧客に好感を持ってもらう広報として、オンライン(ZOOM ウェビナー)による連続物の情報発信を行うこととなったが、テーマの一つに「食」を掲げ、専門家派遣を得て地産地消のこと、マルシェのこと、野菜の知識等を発信するセミナーを行う。

② 市民団体、グループの取組

○ 難波葱の会(大阪市)

「難波葱の会」では、専門家の協力・助言の下、免疫力を強化すると言われている伝統野菜「難波ネギ」を活用した新型コロナウイルス対策(難波ネギでねぎらいたい)として、次の3種の加工食品を夫々1万個作り、府内の病院に送り届ける計画を立てた。

- ・難波葱スープ(お湯をかけるだけ)
- ・難波葱ごはん(チンするだけ)
- ・難波ネギせんべい

クラウドファンディングで約400万円の募金を集め、レトルト食品加工業「幸南食糧」と無印良品の「良品計画」の協力を得て、製品化し、目標を達成した。(朝日新聞掲載記事)



○ 森川喜市商店(東京都豊島区)

コロナ感染症対策により定数を限定したうえで、江戸東京野菜の普及に向け、江戸東京野菜コンシェルジュとして活動しているメンバーがその活動状況の報告を行い、江戸東京野菜である東久留米市の「柳久保小麦」を使った手打ちうどんを賞味しながら、専門家からアドバイスをもらう。



○ 鎌倉大根未来研究クラブ(神奈川県鎌倉市)



鎌倉大根未来研究クラブは、800年前の伝説の大根「鎌倉大根」の復活を目指し、農業者や学校農園での生産や販売を広げる活動を行うと共に自らも畑を借りてその栽培を行っているメンバーの集まり。これまではのイベントは収穫祭(神事)の時の、講演等が中心だったが、鎌倉大根についての県民の認識が高まったことを受け、今回は講演の後、三浦試験場で実栽培を行っている鎌倉大根の中から正しい鎌倉大根を選び、埋め戻した。(4月になったら種を採取する。

○ 新宿鶴巻図書館(東京都新宿区)

江戸時代に早稲田地域ではミョウガが採れたので、鎌倉沖でとれたカツオを持ち込み、カツオ料理を賞味したという伝承の故事に因んだ商店街主催のイベント「早稲田カツオフェスト」の一環として、コロナ対策下、人数を絞り江戸東京野菜の講演会を実施。



○ 一般社団法人グリーンカラー(大阪市、大阪府泉南市)

グリーンカラーはマルシェ開催をする組織だが、コロナで多くのマルシェを休止せざるを得ない状況だったが、非常事態宣言が解除される中、最新のマルシェである泉南りんくう公園と鶴見緑地を再開することにするのでその進め方をアドバイスしてもらいたい。

○ 大阪ぐりぐりマルシェ実行委員会(大阪市)

ぐりぐりマルシェは、2013年から大阪市中心部難波神社境内で毎月第2土曜日に開催されている長い歴史を持つマルシェ(「Green Good Link(ぐりぐり)」)

今回は、このマルシェに難波葱の専門家を呼び、コロナ感染症対策で開発した難波ネギを用いたレトルトのごはん・スープ、ネギせんべいを販売してもらい、難波ねぎのミニ講座を開いてもらう。



○ 持続可能な地球生活を実践謳歌する会(奈良県奈良市)

まだ誕生したばかりの団体だが、周辺農家からの出品を募りJR奈良駅前広場でのマルシェ開催で実績を作りたい

○ フーズフォーチルドレン愛知(愛知県東郷町)

子供たちに安全・安心な農作物の給食を提供することを目的として活動をしているが、その普及啓発のため、オーガニック給食に取り組んでいる愛知県東郷町で講演会を開催。

○ 愛農消費者の会(東京都新宿区)

愛農消費者の会は、全国愛農会所属の団体で、関東で40年以上、生産者と消費者をつなぎ、自然農法、無農薬野菜等の安全な食品を消費者に提供してきた集まり
定例研修会で「農・食・そして未来」について学習し地産地消と安全な野菜作りの大切さを発信。

③ 生産者（農業者）が中心の取組

○ 東京都淀橋市場（東京都新宿区）

淀橋市場は中央市場だが東京の農家の持ち込みが少ないので、江戸東京野菜の魅力を前面に出し、取扱量の拡大を図ろうとしており、「市場の日」のイベントの一つとして江戸東京野菜の講演に合わせ、各商店で江戸東京野菜を売ってもらう。



④ 学生の研究活動

○ 八王子東高校（東京都八王子市）

1～2年生の「探検部」（自主研究）は大学、企業、地域関係者と連携し、地域課題と解決方法を考える学科横断的な学習プログラム。テーマの一つとして、地元の伝統野菜「高倉大根」を取り上げ、取り巻く状況を学び、生産拡大の方法等を研究している。

コロナ下の状況を踏まえ、座学ではなく、実際に福島氏の畑に赴いて農作業を体験する。



13) 農業祭等のイベント

例年、秋を中心に各地の農業祭等のイベントでの都市農業の普及・啓発に多くの専門家が派遣されてきたが、今年は軒並み中止になり、派遣事例はなかった。

14) その他

○ 兵庫県庁楽農生活室（神戸市）

今年度新たに伊丹市で防災協力農地制度がスタートしたことを踏まえ、県が県内市町村を対象に防災協力農地制度についての研修を行った。

4. 課題と解決方法等

(1) 分野別課題一覧

大分類	小分類	取組から見えてきた課題
(1)まちづくり 17件	①農住調和のまちづくり 10件 [郊外での農を活かしたまちづくり、農地保全型区画整理、NT再生]	<ul style="list-style-type: none"> ・農地保全型面整備事業についての施策展開・情報提供が不十分 ・市民団体の発意による農的空間確保の仕組みがない。 ・活動団体の情報交流の場の充実
	②新しい都市農地制度 5件 [一般市での生産緑地導入、都市農地貸借円滑化法による農園]	<ul style="list-style-type: none"> ・農業委員会によっては、都市農地貸借制度についての制度普及が不十分 ・生産緑地制度、農地制度、固定資産税制度、相続税制度にまたがるテーマの説明会実施の難しさ
	③公園と緑 2件 [屋敷林及び農地保全]	<ul style="list-style-type: none"> ・農地が緑地に含まれることになったことと、第一線の緑地行政のギャップ
(2)市民利用 28件	①市民農園 9件 [利用者への情報提供、開設団体の管理・運営、法制度紹介]	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農や援農のための技術研修はあるが、市民農園利用者を対象とした技術指導（有機農法等）は極めて不十分 ・市民農園開設促進のためのセミナー等が不十分
	②コミュニティ菜園 食農ライフ 19件 [自然農法指導、加工・販売、用地確保]	<p>ア 地域住民の野菜作りグループ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうしたグループを対象とした情報提供、研修の場がない。 <p>イ コミュニティビジネスへの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民グループがCSA的な農業、マルシェでの販売を行うことが制度的に想定されていない。 <p>ウ 農的活動の空間確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊休農地の市民利用を促進する仕組みがない。 ・寺社敷地や屋上を利用した菜園設置を促進する仕組みがない。
(3)教育・福祉等 71件	①高齢者・生きがいづくり 1件 [施設での農業指導]	<ul style="list-style-type: none"> ・独自の施設内通貨「鶴亀」の取組の一環で実施。一般的には介護保険制度上の位置付けがないため、取組は低調。
	②障害者福祉等 31件 [特別支援学校での技術指導、就労支援事業所の農福連携と収益増、農を活用した生活介護、農家側での雇用、社会的弱者支援]	<p>ア 特別支援学校(6件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地等の確保が困難。 ・熱心な先生の存在によるところが大。 <p>イ 福祉事業所／農福連携、収益増(17件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス報酬基準が工賃アップに連動していること等から、6次加工及び施設外就労志向で、地域住民との協働の視点が弱い。 <p>ウ 行政・支援組織へのアドバイス(2件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総論から各論、農福事業にどう展開するか。

		<p>エ その他(6件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民団体等が農地貸借、誰が農業技術を指導するか。
	<p>③学校教育等の食育 39件 [総合学習、社会科等で江戸東京野菜学習、いのちと自然、農業技術指導、幼児が食農に親しむ]</p>	<p>ア 東京都小学校の授業(23件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足立区の場合、農業委員会が推進役 他校では、熱心な先生が存在。 江戸東京野菜普及専門家とのコラボ。 ・伝統野菜以外のアプローチが少ない。 ・農空間確保が難しい。 <p>イ それ以外の学校での授業(7件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新居浜市は生ゴミリサイクルと有機農法がテーマ。 ・大阪市では、自然観察学習の一環。 ・星槎高校は農作業中心の体験型ゼミ。 <p>ウ 保育園等(2件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱心な農家の呼びかけにより成立。 <p>エ 自治体や民間の社会教育(7件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートを通して農を考える集まりなど、「農」への新しい芽生えもある。
(4)都市農業 58件	<p>①6次産業化 20件 [加工、流通、マルシェ、観光農園、体験農園、CSA]</p>	<p>ア 都市部農業者 イ 郊外部農業者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスの後のフォローの仕方 (施設整備への補助、融資等) ・実施に農業を営んでいる農家からの助言のリクエスト(ハーブ園、観光農園) 忙しい農家をアドバイザー派遣制度にどう取り込むか? <p>イ 市民サイドの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の農業者の協力を得て、農作物を使った加工、流通、調理の事業に取り組んでいるグループ、企業 ・こうした活動への支援策も必要では?
	<p>②担い手育成や農地確保 10件 [農家・集落での環境維持、市民からの新規就農、農地利用・環境維持活動の市民グループ]</p>	<p>ア 農家・集落の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後継者がなく、一部農地の遊休地化もみられるなかで、都市住民を取り込んで自然環境維持 ・後述する市民サイドの取組との連携をどう図るか? <p>イ 市民サイドの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市住民側で地域の農環境を守るためのグループ作り等の動き ・都市住民の中から新規就農者を育てるビジネスがスタート ・青年就農者等の既存の仕組みに乗らない者、グループ等をどう位置付け、支援するか?
	<p>③入園方式等の農業経営 14件 [入園方式紹介、市民参加型農業、農地制度紹介、GAP]</p>	<p>ア 体験農園の開設指導等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県が農業者向け講習会 <p>イ 市民と連携した農業経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者へのアドバイス、農地で農業施設以外の施設を整備する上での課題が多い。

		ウ 若手農家の勉強会(東京都) ・相続制度、コロナ補助金、東京 GAP 等
	④地産地消 14件 [セミナー、ワークショップ、商品開発、伝統野菜、マルシェ、研究の素材]	ア 飲食店・関連企業 ・コロナで激減、オンライン実施等 イ 市民団体 ・マルシェ関連の取組と江戸東京野菜、なにわの伝統野菜関連の取組が多い。 ・伝統野菜については、栽培農家の拡大、販売ルート整備等が課題となる。 ・その意味で、今回コロナ対策として、クラウドファンディングを利用し「難波葱」を利用したスープ等を製品化したことは出色。 ウ 農業者の取組 ・市場で伝統野菜(江戸東京野菜)を販売するイベント実施、販路確立の取組。 エ 学生の研究活動 ・伝統野菜(江戸東京野菜)栽培体験を通じて、意義を学ぶ。
(5)税制その他 2件	①その他 2件 [防災協力農地の紹介]	・県が主催した防災協力農地制度についての自治体研修会

(2) 都市農業の機能発揮のための取組の基本方向

都市農業振興基本法によりその多様な機能の発揮を図りつつ都市農業を振興すべきこととされ、都市農業振興基本計画において、都市内の都市農地の位置づけが「宅地化すべきもの」から「都市にあるべきもの」に転換され、コンパクトシティ化と連携して制度構築を図るべきことが示された。

また、当面する2022年問題への対応を急ぐことが示され、この間、生産緑地法の改正等が行われ、一方で都市農地貸借円滑化法が創設された。

更に、国際的には2015年の国連サミットで持続可能な開発目標としてSDGsが採択される中、様々な社会的課題解決のための「農」活用の動きが広がっている。

これらを踏まえた、我が国における都市農業振興、都市農地保全に向けた基本的方向は次の通りである。

①生産緑地法等の改正及び都市農地貸借円滑化法の活用等による農地保全・多様な都市農業経営の実現(2022年問題への対応等)

- イ 自治体の特定生産緑地指定作業の推進
- ロ 一般市における生産緑地導入等
- ハ 都市農地貸借円滑化法の活用等による多様な都市農業経営の実現

②持続可能な社会実現に向けたSDGsに対応した「農」の活用

- イ 農地や公園緑地を利用した多様な「農」的空間の創出
- ロ 農家と市民の協働による農的空間の維持・保全
- ハ 農地以外の農的空間利用への支援

③農地を「都市にあるべきもの」にするための取組

- イ 田園住居地域、農地保全地区計画等の都市計画の推進
- ロ 公園緑地制度の中での農地保全
- ハ 都市農業振興地方計画等の取組

(3) アドバイザー派遣制度の課題

1) 自治体、JA での活用に向けた掘り起こし

取組の基本的方向のうちで社会的要請度の高い「生産緑地法等の改正及び都市農地貸借円滑化法の活用(2022年問題への対応等)」や「農地を『都市にあるべきもの』にするための取組」に対応して積極的にアドバイザー派遣を行う必要がある。

その主体が自治体、JAであることを考えると、農林水産省、国土交通省及びJA全中と連携し、例えば多くの市街化区域内農地を有する市町村等での生産緑地制度導入や農地保全型地区計画を考えている市町村等に積極的にアドバイザー派遣制度の活用を働きかける。

2) 多様な都市農業経営の実現への対応

ハーブ園開設、加工等6次産業化、CSAなど市民を取り込んだ農業経営等のテーマで実際の経営に携わっている農家などへのアドバイザー派遣リクエストが増大している。

自らの農業経営に追われている農家をアドバイザーとして登録することの難しさ、派遣することの難しさ等のハードルがあるが、オンラインの活用等によりこの分野での対応を進める必要がある。

3) 超高齢社会の中で、高齢者福祉での農的空間活用の推進

取組の基本的方向②「持続可能な社会実現に向けたSDGsに対応した『農』の活用等」に対応したアドバイザー派遣のテーマとして、教育・福祉のウエイトは高い。

しかし、その中で「高齢者・いきがづくり」については、今年度は特にコロナ感染予防対策の影響を強く受け実施が難しかったと考えられるが、それ以前から、同じ福祉分野の障害福祉と比較して極めて低調な状態が続いている。

先に述べたように、介護保険制度の影響下にあり、制度の中の施設・人員配置基準や加算項目として農的活動が位置付けられていないことが大きな理由と考えられるが、その意義を考えた時、該当する専門家の登録推進や取り組みのPR等の手立てを講じる必要がある。

4) 都市農地等の環境を維持するための地域の取組の位置づけ

都市周辺等で農地や水路等の環境やそこで育まれてきた地域コミュニティを維持しようとする取り組みが、農家側及び市民側双方から生まれている。

農家の場合は、高齢化に伴う担い手探し、市民の場合はそうした状況をにらみ主体的に担い手参入の動きであり、双方のマッチングの仕組みが求められており、アドバイザー派遣事業のジャンルとして位置づける必要がある。

5) アドバイザー派遣制度PRの充実

政策として自治体やJAが主導する農業政策や都市政策と異なり、市民団体やグループ等による都市農業の機能発揮の取組みは、たまたま熱心な指導者、中心人物がいたことによりスタート、継続しているものが殆どである。

市民の中でのこうしたリーダーを増やすためには、社会全体としての底上げが必要であり、そのためには、都市農業の機能を発揮した多様な取組が期待される社会になっていることを様々な場面で啓発することが大切である。

コロナ感染予防対策が進む中、インターネットの役割がますます増大しており、YouTube等を活用した啓発、PRを進める必要がある。

農山漁村振興交付金のうち 都市農業機能発揮対策

詳細はYouTubeで
ご覧いただけます



【令和3年度予算概算決定額 9,805(9,805)百万円の内数】

<対策のポイント>

都市部での農業体験等による交流を通じた都市住民と共生する農業経営の実現を図る取組や都市農地の貸借による次世代の担い手づくりの取組に加えて、農地の周辺環境対策、災害時の避難地としての活用を支援します。

<事業目標>

都市農地の貸借の円滑化に関する法律に基づき貸借された農地面積（255ha [令和6年度まで]）

<事業の内容>

1. 都市農業機能発揮支援事業

都市農業が有する多様な機能を活用した取組を支援するための都市農業等のアドバイザーの派遣、都市農業を持続的に経営していくための税制度・相続等の講習会の開催、都市住民をはじめとする国民の都市農業に対する理解醸成や農業・農山漁村への関心を喚起するための効果的な情報発信等の取組等、都市農業の機能発揮のための全国に向けた取組を支援します。

都市農業機能発揮支援

<事業イメージ>

都市農業アドバイザーの派遣



都市農地に関する税制度や相続に関する講習会の開催



都市農業に対する都市住民の理解醸成や農業・農山漁村への関心を喚起するための情報発信



2. 都市農業共生推進等地域支援事業

① 通常型

- ア 都市住民と共生する農業経営への支援策の検討や都市農業の機能についての理解醸成、市民農園、体験農園の附帯施設の整備や都市農地の周辺環境対策等の取組
- イ 都市農業者と都市住民が直接ふれあうマルシェ等の開催による交流促進のための取組
- ウ 都市農業の多様な機能の一つである防災機能の維持・強化等の取組等を支援します。

都市農業共生推進等地域支援

●通常型

都市住民と共生する農業経営への支援策の検討



都市住民との交流促進



都市住民の農業体験



都市部でのマルシェ等の開催



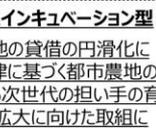
体験農園の附帯施設、都市農地の周辺環境対策



防災機能の維持・強化



都市の農業体験農園



防災訓練や防災兼用井戸の整備



② 都市農業インキュベーション型

上記①のうち、特に、都市農地貸借法を活用した次世代の担い手づくりの先進的な取組を優先的に支援します。

●都市農業インキュベーション型

都市農地の貸借の円滑化に関する法律に基づく都市農地の貸借による次世代の担い手の育成や経営拡大に向けた取組に対し、加点措置による優先採択を実施



<事業の流れ>

※下線部は拡充事項



【お問い合わせ先】
農村振興局都市農村交流課 (03-3502-5948)

一般財団法人 都市農地活用支援センター

東京都千代田区岩本町3-9-13 岩本町寿共同ビル4階
TEL. 03-5823-4830 / FAX. 03-5823-4831
E-mail: tosinouti@tosinouti.or.jp
HP URL: <http://www.tosinouti.or.jp/>



「都市と農の共生」

都市農業が有する様々な機能発揮の取組事例をHPIにて紹介
<http://www.tosinouti.or.jp/living/caselist.html>

